

一般財団法人 全日本交通安全協会 推薦

いつまでも 安全運転を!

～高齢ドライバーに必要なこと～



ナビゲーター 下條アトム

注意力の配分や集中力の低下を補う工夫とは?

企画意図

高齢ドライバーは、年々、増加の一途を辿っています。ところで、車の運転は、いつまでも若々しく豊かな人生を満喫していくために、できるだけ長く続けていきたいものです。しかし、高齢者になると、身体機能の低下や変化が事故につながることも少なくありません。

この作品では、高齢ドライバーに多い事故例を描きながら、どのようなことに注意をしたら、交通事故を防ぐことができるのか、安全運転の秘訣を示していきます。

高齢ドライバーにとって最も重要である『老いに気づき、いかに老いを補うのか』をポイントに、高齢者独自の安全意識の必要性をナビゲーター役の下條アトムさんが訴えています。

一般・高齢者向け **いつまでも 安全運転を！～高齢ドライバーに必要なこと～**

作品の概要

1 高齢ドライバーの死亡事故原因は—

高齢ドライバーには、運転操作不適や一時不停止などの法令違反による死亡事故が目立ちます。そうした事故を防ぐにはどうすればよいのでしょうか。

50年間、無事故のドライバー森田さん。奥さんと一緒に自動車で出かけるようですが…あっ、あぶない！

2 一時不停止の違反

一時不停止の違反。この違反によって、高齢ドライバーの場合、一般ドライバーの4倍近くも死亡事故が多く発生しています。

高齢になると注意力が途切れ、漫然運転になりがちです。必ず一時停止をし、左右の安全を確認する習慣を身につけることが大切です。

3 車線変更時の注意

車線変更でヒヤリハットした森田さん。高齢者になると、注意力の配分や集中力が低下しがちになるので、それを自覚し、補う工夫をしておくで安心です。

出かける前に地図を確認するなど、ルートを把握することで、慌てて車線変更をすることを防ぎます。

4 右折時の注意

交通量のある交差点。右折時にはたくさんのことを短い時間に正しく判断しなければなりません。森田さんはそれが不十分だったため、事故を起こしそうになりました。

安全な運転をするためには、運転の三要素(①目や耳で認知 ②状況を正しく速やかに判断 ③的確な運転操作)が重要ですが、歳をとるとともに、その流れが滞りがちになり、事故につながるケースが少なくありません。

動体視力の衰えや周辺視機能の低下など、加齢による身体機能の低下や変化が、事故につながることもあります。

5 衰えを補う方法

- ①夕暮れ時・夜間・雨天など視界の悪いときや、体調がすぐれないとき・薬を飲んでいるときは、運転を差し控えること。
- ②時間にゆとりを持ち、十分な車間距離を保つこと。
- ③いつもの道だからと言って、決して油断しないこと。

6 正しい運転方法のおさらい

長く運転していると、運転のクセが出てきます。そのため、シートの前後の位置、ミラーの位置など、正しい運転姿勢を、もう一度確認しましょう。そして、スピードは控えめに、いつでも安全確認はしっかり。無理はせずゆっくり。また、どうしても運転に自信が持てない場合は運転経歴証明書の交付も可能です。

平成24年末、65歳以上の運転免許保有者は、1,421万人。いつまでも若々しく豊かな人生を満喫していくために。皆さんも、しっかり安全確認から……。

一般財団法人 全日本交通安全協会 推薦

制作・著作

株式会社 映学社

企画・制作統括
脚本・演出
撮影
制作進行
ナレーター
コーディネーター

高木裕己
細見吉夫
中村賢二郎
篠崎周馬
中村久美
斎藤晃頭

- 本体 **¥65,000** +税 ※字幕版も収録されています。
- DVD [カラー・15分]
- 2013年・映学社作品

●お問い合わせ、お申し込みは……

各都道府県・各地区交通安全協会
一般財団法人 全日本交通安全協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-13 自動車会館7階

TEL:050(3531)0571